



高橋かおる(たかはし・かおる) 乳腺外科部長
1986年、浜松医科大学卒業。同年、東京大学第二外科入局。東京船員保険病院外科、東京都立墨東病院外科等を経て、94年より癌研究会附属病院乳腺外科。2006年より静岡がんセンター乳腺外科部長。日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医。専門分野は乳がんの早期診断と縮小手術。2005年あけぼの会 DOCTOR OF THE YEAR 受賞

早期発見で高い治癒率

日本は、欧米に比べて乳がんが少ないことで有名で、欧米の女性たちからはとてもうらやましがられて来ました。例えば、アメリカの女性が一生のうち乳がんにかかるのが八人に一人なのに対し、日本では二十五人に一人くらいと言われてきました。しかし近年、日本でも乳がんは急激に増加し、罹患率では他のがんを抜いてトップになりました。

また欧米では乳がんの死亡率は減少傾向にあります。日本では、増加する傾向にあり、二〇〇四年には亡くなった方が一万人を超

患者さん、家族をサポート

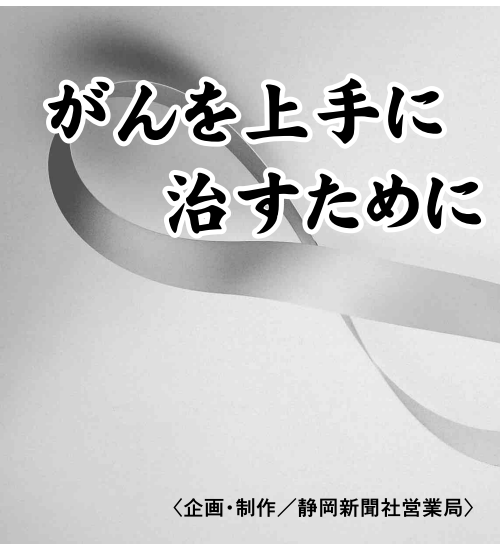
がん化学療法では、患者さんが主体的に治療に参加する、また看護師が役割を遂行する上で「患者さんが必要と認識できるかどうか」ということが重要です。このことは治療の継続や効果にも影響します。

本日は、このことを念頭に置き、がんを上手に治す”ことについて述べます。

がん化学療法の看護の目的は、患者さんが安全に、生活の質を可能な限り維持しながら治療を受け、継続できるような支援することです。したがって私たち看護師は大きく二



石出恵子(いしで・けいこ) 病棟看護師長
国立国府台病院付属看護専門学校卒業。国立国府台病院、国立療養所松戸病院(肺がん、消化器がんの周術期病棟)、国立がんセンター東病院(全科対象個室・クリーンルーム病棟)勤務。1997年みやまえ訪問看護ステーション(東京都)で在宅看護を学び、2002年4月より静岡がんセンター勤務。同年、女性病棟勤務。04年4月同センター一般病棟(胃外科・消化器内科)勤務。現在に至る。



がんを上手に治すために

〈企画・制作／静岡新聞社営業局〉

乳がん手術と術後補助療法

乳腺外科部長 高橋かおる氏

乳がんは、〇期なら一〇〇%、I期でも九〇%が治りまけるんだという意識を持つことが重要です。自己触診を心掛けてみる。乳がんの最大の理由は、乳房腫瘍、つまりしこりで見つかりました。ですから乳がんは、女性が自分で見つけるんだという意識を持つことが重要です。自己触診を心

がん治療についての最新情報を多角的に学ぶ。県立静岡がんセンター公開講座「がんを上手に治すために」(静岡新聞社・静岡放送、三島市民文化会館主催、同センター共催、スルガ銀行特別協賛)の第四回講座が、先月二十一日、三島市の三島市民文化会館で開かれました。同センター乳腺外科部長の高橋かおる氏が「乳がん手術と術後補助療法」、病棟看護師長の石出恵子氏が「がん化学療法のケア」をテーマに講演しました。その概要を紹介いたします。

三つの治療を組み合わせる

乳がんの治療の基本は手術で、ごく一部の進行してしま

乳がん、I期は、がんが二センチ以下で乳房にとどまり、リンパ節転移のない、非常に早期のがんで、このように早く見つければ治癒する可能性の高いがんです。で、ぜひ検診を受けていただき、早期発見に努めていただきたいと思いま

えるに至りました。この原因は女性の意識の問題が一番大きく、欧米ではマンモグラフィ検診を七割前後の女性が受

超音波を使ったり、乳首を絞って分泌がないかチェックしたりする方法があります。乳がんが見つかると「手術をしなければ治らないのでしょうか」と聞かれる患者さんがいますが、そのときは「あなたの場合、手術できる早期の段階で見つ

身に潜むがん細胞に対しては術後または術前に薬物療法が行われます。このような、手術と組み合わせる再発の芽を摘み取る役割をするのが補助療法です。それぞれの療法について、それぞれに紹介いたします。

【手術療法】乳がんの手術では、乳房に対する手術と、リンパ節に対する手術を組み合わせで行います。一、乳房の手術

【放射線療法】乳がんは、乳房切除術後の照射、乳房温存術後の照射、乳房切除後の放射線治療を行います。二、リンパ節の手術

【薬物療法】これまでは主に術後に行われてきました。最近では、先に抗がん剤治療を行ってから手術する場合もあります。一、ホルモン療法

がん化学療法のケア

病棟看護師長 石出恵子氏

がん化学療法では、患者さんが主体的に治療に参加する、また看護師が役割を遂行する上で「患者さんが必要と認識できるかどうか」ということが重要です。このことは治療の継続や効果にも影響します。

【副作用】がん治療には、副作用があります。多くの副作用があります。各抗がん剤の特徴や個人差により副作用の出方や強さは異なります。

【患者さんに必要なこと】抗がん剤の特徴を知っていただくことです。抗がん剤の多くは正常細胞よりも増殖が速い特徴があります。抗がん剤の副作用などで抵抗力が落ち

【焦燥感を一人で抱え込まないで】当院では、副作用をうまく活用する場合があります。ご自分で異常を自覚し次の適切な行動ができます。同時に、感染予防行動を継続する上で役立ちます。